

180829 シンポジウム登壇者へのヒアリング

【関西観光本部の森 健夫事務局長】

【有馬温泉 陶泉 御所坊 金井啓修様】

【大阪市商店会総連盟理事長の千田忠司様】

【京都市観光産業局 観光 MICE 推進室の西松卓哉観光戦略課長】

【関西観光本部の森 健夫事務局長にお話をお聞きしてきました】

森さまは多くの経歴をお持ちですが、観光面では関西広域機構(KC)に始まり、関西広域連合や現職の関西観光本部(H29年4月設立)の立ち上げに関わってこられています。またワールドマスタースゲームズ2021 関西組織委員会にも関わっておられます。

観光の組織は、従来は行政の下請けのような組織であったものから、民間のノウハウを活用した官民連携の必要性を訴え「関西観光本部」を立ち上げるに至ったそうです。しかし官民連携の組織といっても、各組織の歴史や風土から一枚岩になるのは簡単ではなく、確実に「できるものからやっていく」と語られました。

観光の組織も大きく変遷している最中ですが、組織の変遷から見る本音もお聞かせいただけそうです。

「関西観光本部での実績としてはインバウンド向けICカード「KANSAI ONE PASS」がありますが、今回は組織の壁を超えたカードを作ることに腐心した。このカードをさらに進化させるには、利便性をあげる必要がある。またこのカードは3千円という手取りやすい価格から販売を始めたが、インバウンド向けという視点からは、安価だけでなく、利便性を高めながらアッパー層向けの商品もあってもいいのではないか」とのお話でした。

バックパッカーの訪日客を増やすことも大切だが、アッパー層向けのサービスにも取り組みたいと語られていました。

※ 関西観光本部は関西の各府県・政令市・経済団体・観光団体など官民62団体による広域連携DMOとして2017年4月に設立された。関西全域へのインバウンド推進を目的とし、誘客方策の方向性を示した「KANSAI 国際観光指針」をまとめた。指針では2020年に関西への訪日外国人訪問率を現状の40%から45%に高める目標を掲げている。

【参考資料】

関西圏における観光統計総合分析の結果について(2018.08.13)

<http://kansai.gr.jp/ktb/wordpress/wp-content/uploads/2018/08/○関西圏における観光統計総合分析参考資料.pdf>

【有馬温泉 陶泉 御所坊 金井啓修様にお話をお聞きしてまいりました】

梅田からバス1時間で有馬温泉に到着。その中心部にひっそりとたたずむ木造の宿「御所坊」の金井啓修(かないひろのぶ)様をお訪ねしました。

有馬温泉は、阪神淡路大震災により102万人にまで落ち込んだ観光客を平成28年には169万人にまで回復させたといいます。その立役者の金井様は観光庁の「観光カリスマ百選」にも選ばれておられます。

大阪からの直通バスも増便され、京都からの直行便もできて来訪者は増加傾向。私たちが乗車したバスも満席でした。乗客の半数は訪日客で、外国人は確実に増えているそうです。

有馬の源泉は1600万年前の地層が隆起したもので、世界的にもユニーク。1400年の歴史を持つ有馬温泉とともに訪日客の誘因にもなる。また周辺の三田市などと連携して「湯山街道」を日本遺産として申請したい。また日本遺産を目指している、灘五郷の日本酒や北前船と連携して、最終的には世界遺産の登録を目指したい。

今は、「有馬山椒」の復活に取り組まれています。

「スローフードの魅力と、絶滅危惧種としての付加価値を発信することで、成熟したグルメ客や旅行者が有馬の名前を自然に広めてくれる」と金井さんは語られました。

【参考記事】

『すごいすと取材記』（一社）有馬温泉観光協会 金井啓修さん 兵庫県

<http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/sugoist/interview/kanaihironobu>

【千田会長にお話をお聞きしてまいりました】

大阪の訪日客はアジア系、それも圧倒的に個人旅行者が多い。大阪のホテル稼働率は90%を超えている。

ミナミの千日前道具屋筋商店街も訪日客でごったがえしている。

たとえば、商店街の包丁専門店。1本あたり2万～30万円の包丁がよく売れているという。

千田さんが商店街振興組合の理事長を引き受けられたのはバブル崩壊後の1994年。「もう内需だけではダメだ。世界中にファンを作って観光都市として進化しなければ」と決意したといいます。

当時、関空に到着した訪日客は大阪を素通りして京都に向かっていった。「大阪が訪日客にウエルカムであることを伝える」必要があるとして、「銀聯カード」などいろいろな取り組みをしてきた。

17年には「大阪活性化事業実行委員会」が国交省の「地域DMO候補法人」にも登録されている。

今、大阪は「万博」に向けて一丸として誘致に取り組んでいる。

IR(カジノを含む統合型リゾート)も他人事ではいけない、当事者意識を持つ必要がある。

夢のある話もたくさん聞かせていただきました。

シンポジウム当日、千田節が爆発して新しい取り組みが聴けるものと思われま

す。1時間以上お時間を頂戴しましたが、ワクワクする内容でした。

【参考記事】

訪日客が殺到！老舗商店街のスゴい「仕掛け」～数万円の高級包丁が飛ぶように売れるワケ～
(東洋経済 ONLINE 2016/02/24)

<https://toyokeizai.net/articles/-/105945>

【京都市観光産業局 観光 MICE 推進室の西松卓哉観光戦略課長にお話をお聞きしてきました】

京都市の宿泊者数は 1557 万人、このうち外国人は 353 万人だった。東山地区などは外国人が大勢歩くようになってきたが、京都市全体を見るとまだまだ偏りがあり、市内の幅広い地域に行ってもら

工夫をしている。また、日帰り観光客が減少しており、最近のオーバーツーリズムの論調には疑問を感じている。

インバウンドは大きなトランクを抱えて移動するため、京都市バスも混雑しており、市民が乗車できないような現象も起きてきている。京都市としても「手ぶら観光」を推進し、また、市バスを”後乗り”から”前乗り”に変更する実証実験など対策を講じている。

「観光」は京都市にとって大きな産業だ。今後はよりインバウンドに満足度の高い観光を感じてもら

ように働きかけたい。また、「民泊」については違法なものが多く残っており、違法民泊を排除するとともに、質の高い宿泊施設の整備を進めている。

今後は、「観光」と「市民生活」のバランスが重要になってくる。インバウンドのマナー問題などは、京都市だけで取り組めるものではないので、関西全体、また日本として取り組む必要があり、観光庁や関西観光本部の活動などに期待したいと語っておられました。